

真宗大谷派（東本願寺）天満別院

六字城

ROKUJIJO

2020/2/1
No.663

大阪市北区東天満 1-8-26
06-6351-3535
http://www.tenma-betsuin.jp
代表者 輪番・武宮 信勝



「白梅」富士山を背景に（撮影者 西松 薫）

自と他と共に生きようー

如来の仰せー

天満別院輪番 武宮信勝

北海道時代からの古き友人に、中村俊道君がいる。その彼から新年早々、一代記を綴ったような書簡をいただいた。彼との出会いは高校時代からで、大谷大学そして僧侶となって互いに親鸞教学・同朋会運動への取り組み等々、膝を交えて語り合ったことを懐かしみつつ拝読させてもらった。彼、中村君は44歳から筋肉劣化による体調不良になり、5回に及ぶ入院を通し、死の境を4度も体験している。その心境は「生まれたからには、今が臨終である」と言い続け、今も週3回透析を受けているとあった。青年期に父と死別し住職歴46年の苦悩が染み渡った書簡であった。彼は私にとって同じ真宗寺院の住職として学ぶことの大きい「よき人」である。中でも私には出来ない出来事として1975年（昭和50年）「真に聞法する寺に」と願い全門徒を解散し、新たに「門徒名簿」の整理をした事である。まさしく「家の宗教から自覚の宗教」への展開である。ご門徒から裁判所に訴えられるという事態までになり、「門徒数も半減した」と当時、直接本人から聞いた。高校・短期大学等の非常勤講師を勤めつつ、切磋琢磨し妻子を養ってきた。病氣と真向かい、生と死と共に体得した理念は「最期まで自分を見届け 最期まで自分を見捨てない」という一貫した言葉であったと語る。

書簡の結びは「今の延命治療は、末期症状が現れるまで続くのか？全く分らないが、生きている限りは、自他共生の課題に取り組んで生ける『今』がある。」と閉じられていた。

厳しくも、生き抜く力を見せしめてくれた彼に、唯々「ありがとう」と申したい。

白梅の富士山から一句
寂光と いふはるけさの 梅白し

—武宮 至—（輪番の従兄）

法要・行事予定

2月

2日	実如上人御祥月御命日	(午前8時)
6日	彰如上人御祥月御命日	(午前8時)
8日	現如上人御祥月御命日	(午前8時)
9日	同朋の会 稲垣洋信師	(午後2時) (第7組長教寺住職)
12日	闍如上人御遠夜・常永代経	(午後2時)
13日	闍如上人御命日 兼日中	(午前8時)
15日	天満別院合唱団『みのり』 指導 村上奈津子師	(午後2時) (第13組超願寺住職)
22日	乗如上人・聖徳太子御祥月御命日	(午前8時)
24日	正信偈書写の会 定例法話 沖野頼唯師	(午前10時) (午後1時30分) (第7組本照寺住職)
27日	宗祖聖人御遠夜	(午後2時)
28日	宗祖聖人御命日 兼日中	(午前8時)
29日	善如上人御祥月御命日	(午前8時)

3月

1日	一緒に遊ばへん？どこで？お寺で！ ～子どもの集い～	(午前10時)
8日	同朋の会（座談会） 建部智宏師 稲垣洋信師	(午後2時) (第7組教應寺住職) (第7組長教寺住職)
12日	闍如上人御遠夜・常永代経	(午前8時)
13日	闍如上人御命日 兼日中	(午前8時)
20日	正信偈書写の会 春季彼岸会 並 総永代経法要 兼 墓地納骨 (物故者) 追弔法要	(午前10時) (午後1時30分)
21日	天満別院合唱団『みのり』 指導 村上奈津子師	(午後2時) (第13組超願寺住職)
25日	蓮如上人御祥月御命日	(午前8時)
27日	宗祖聖人御遠夜	(午後2時)
28日	宗祖聖人御命日 兼日中	(午前8時)

◆台風19号 被災地救援金

ご協力ありがとうございました



令和元年の台風第19号により、甚大な被害が発生している状況を受け、被災地の支援の一助となるよう、被災地救援募金箱の設置を行いました。

皆さまから、総額29,953円の心温かい救援金が集まりましたことをご報告させていただきます。

皆様からお預かりした救援金は、大阪教務所を通じて本山救援金窓口へ全額寄付いたしました。多くの皆様の温かいご支援に厚く御礼申し上げます。

今月の伝道掲示板

この一生は

絶対

無二の

一生なり

ー永明寺（西本願寺）ー

今年は全国的な暖冬による雪不足で営業できないスキー場が多く、その反面、ゴルフ場は、暖冬の恩恵を受けていると知りました。

私がスキーが好きならば、滑れないことを残念に思い、ゴルフが好きならば、この時期にゴルフができることを嬉しく思うでしょう。

このニュースを見た時に、私はどこまでも自分の都合で物事を考えているのだと再確認してしまった今日この頃です。

(H)

編集後記

本山（東本願寺）御用達

(株) 平安法衣産

〒600-8153
京都市下京区東町本願寺大門前
電話 (075)-351-3681
FAX (075)-351-5563

株式会社 太田石材店

本社
〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号
TEL (06) 6930-5075 FAX (06) 6930-5078

工場
〒536-0017 大阪市城東区新喜多東1丁目8番2号
TEL (06) 6968-8111 FAX (06) 6968-8805

<http://www.otasekizaiten.co.jp/>

大谷派（お東）と本願寺派（お西） どう違う？



答え

真宗大谷派（お東）と浄土真宗本願寺派（お西）とは、お勤めの節以外にも、お内仏（お仏壇）やその中のお荘厳（おかざり）、よく見ればご本尊の後光の表し方も少し違います。現在ではさまざまの違いがありますが、言うまでもなく元は同じです。

織田信長との石山合戦がきっかけで、石山（現大阪城）にあった本願寺は、紀州鷺ノ森、泉州貝塚、そして、この大阪天満川崎にその場を移しています。私たちの天満別院は、その川崎本願寺の伝統を受け継いでおり、「六字城」という言葉もその当時に由来します。

その後、本願寺は、豊臣秀吉によって寺地を寄進され京都堀川に移りますが、様々な事情で二分され、徳川家康が寄進した京都烏丸の地に新たな本願寺が開かれました。それぞれの位置から、烏丸の本願寺が「お東さん」、堀川の本願寺が「お西さん」と親しまれ、今日まで親鸞聖人のお教えをいただく教団を護持相続してきました。

東西分派から長い時が流れ、私たちの選びに先立っていた多くご縁もある中、賜った時と場を懸命に生き、親鸞聖人のお教えを聞き続けてこられた先輩方の歩みが私たちに届けられています。

「お東」「お西」いずれの立場もその源には、親鸞聖人が明らかにされた本願念仏のみ教えを聞信しながら、すべての人を御同朋として生きて行く立脚地を確かめ続けてきた歴史がそこにあります。その一点においては「お東」も「お西」も違いはありません。（第7組 教應寺 建部 智宏）

告知

◆「一緒に遊ばへん？どんでん？お寺で！」
子どもの集い 開催のお知らせ

別院では、「子どもの集まるお寺へ」という願いのもと、東本願寺企画調整局、ご門徒、青年部会のご協力をいただき、子どもの集いを左記の通り開催いたします。当日はNPO法人「縁遊〜えんじょい〜」様にもご協力いただき、新鮮な野菜を安価で取り揃えた野菜マルシェを開催いたします。保護者の方はそちらもお楽しみください。

記

日時 3月1日（日）10時〜12時
※野菜マルシェは10時15分〜
会場 天満別院本堂・境内

※なお、当日お越しの際は、公共交通機関、お車でお越しの方は近隣の駐車場をご利用ください。

参加費 無料
ご参加いただいたお子さまにはお土産を用意しております

開催日時 2020年 3月1日（日）
10:00〜12:00
▶10:15〜 野菜マルシェ
※売り切れ次第終了、雨天決行

会場 真宗大谷派（東本願寺）天満別院
※地図が裏面にあります

遊び内容
・お手玉 ・紙飛行機
・射的 ・卓球
・空気砲

NPO法人 縁遊〜えんじょい〜
による野菜マルシェ
新鮮な国産野菜（約10品目）を特別価格で!!
100円均一コーナー（キャベツなど）もありません!!

主催 真宗大谷派（東本願寺）天満別院
協力 真宗大谷派（東本願寺）企画調整局

報告

◆天満別院新年会

去る1月19日（日）18時から別院1階講堂に於いて新年会を開催いたしました。

新年会にはご門徒、崇敬寺院の方々が25名お越しくださいました。

開会の言葉の後、武宮輪番より、「今年から新年会の場所が別院になりましたのは、お寺に足を運んでほしいという願いのもと、また従来の宴会場であった堅い感じではなく、慣れた場所での和やかに楽しくという思いがあったから」と挨拶がありました。

その後、奥林責任役員の乾杯の音頭で会食歓談となりました。



沖縄三線奏者
奥田さんの演奏



スカットボール
の様子

会食中には南溟寺衆徒の奥田なおみさんによる沖縄三線の演奏があり、その後スカットボール大会を行い、皆様楽しんでおられました。



会食歓談の様子

賞品授与時 会場の様子



最後に八十島門徒会長より閉会の言葉がありました。
本年より新年会の会場が別院となりましたが、多くの方にご参加いただき、御礼を申し上げます。

◆定例法話



師 今井 健太郎 師 今井 健太郎 師 今井 健太郎
常稱寺 今井 健太郎 師 今井 健太郎
「浄土真宗 はじめの一步」

去る1月24日（金）、御講師に13組常稱寺住職 今井健太郎師をお迎えし、講題「浄土真宗はじめの一步」のもと、ご法話をいただきました。

師からは、「皆様が安心して生きるためにはどうしたらいいのか？それを聞くのが仏教であり、仏教には内側に意識を向ける（他力）と外側に意識を向ける（自力）があり、仏教はすべからず他力を重視しており、私たち浄土真宗は特にこの自力・他力を大切にしている」として「私たちは内側に意識を向ける（一心一向）、つまり、自身がどうしたいのか、自分自身をどう思っているのかを考へることが大切であるが、私たちは内側に意識を向けることを教えてもらっていないのですぐに実践できない。そこで、お茶を飲んだら5秒味わうといった、この味わうというのを大切に、皆様の



おぜんざい 準備の様子



おぜんざい 会場の様子

心の内側で、世間の基準に囚われることなく、嫌われることを恐れないで、自身にとって心地良くないことをやめることで、自身の心地良いたことが明確になる。そうすることで、皆様の心が安らになり、その結果、仏様も御先祖様も喜び、これを仏恩報謝の生活という。私たちは仏様の願いを叶えているのだから、自身の内側に意識を向けてください」と述べられた。

◆門徒会婦人部による

「おぜんざい」の接待!!

定例法話の後には、門徒会婦人部の方々がご協力を賜り、「おぜんざい」の接待がありました。

お正月にお飾りしたお餅を、皆様と一緒にいただきました。門徒会婦人部、またお手伝いいただきました方々に厚く御礼申し上げます。